

ドイツ語圏における バルカン言語研究の現状と問題点

井 浦 伊知郎

1. 序

バルカン半島の諸言語に対する共時的・通時的な研究は印欧語学・比較言語学の中で確固たる地位を占めているが、特に（母語圏であるバルカン半島を除けば）ドイツ語圏に重要な研究拠点が集中している。その研究の流れを踏まえておくことは日本のバルカン言語研究にも有益であろう。本稿では、その試みの一端として「バルカン言語学 Balkanlinguistik」、あるいは言語・文化論も含めた「バルカン学 Balkanologie」のドイツ語圏における研究について、主要なモノグラフを中心にその傾向を概観する。

2. *Balkanologische Veröffentlichungen*

ベルリン自由大学・東ヨーロッパ研究所 (FU Berlin– Osteuropa-Institut) はバルカン研究をテーマとするモノグラフのシリーズ *Balkanologische Veröffentlichungen* (以下 BFとも) を刊行している。内訳は次の通り (14 は英語版 11, 17, 32 は仏語版につき省略¹⁾) ;

- BV1. Reiter, Norbert (1979): *Komparative*.
- BV2. Ziegler, Susanne (1979): *Das Volkslied in Westmazedonien*.
- BV3. Stölting, Wilfried(u.a.) (1980): *Die Zweisprachigkeit jugoslawischer Schüler in der Bundesrepublik Deutschland*.
- BV4. Faensen, Johannes (1980): *Die albanische Nationalbewegung*.
- BV5. Reiter, Norbert (hrsg.) (1983): *Nationalbewegungen auf dem Balkan*.
- BV6. Sokolova, Bojka (1983): *Die albanische Mundart von Mandrica*.
- BV7. Schubert, Gabriella (1982): *Ungarische Einflüsse in der Terminologie des öffentlichen Lebens der Nachbarsprachen*.
- BV8. Reiter, Norbert (hrsg.) (1983): *Ziele und Wege der Balkanlinguistik*.
- BV9. Reiter, Norbert (1984): *Gruppe, Sprache, Nation*.
- BV10. Hetzer, Armin (1984): *Geschichte des Buchhandels in Albanien*.
- BV12. Reiter, Norbert(hrsg.) (1987): *Die Stellung der Frau auf dem Balkan*.
- BV13. Reiter, Norbert (1987): *Der serbokroatische Präpositionstyp nad/iznad*.

- BV15. Tornow, Siegfried (1989): *Burgenlandkroatisches Dialektwörterbuch*.
- BV16. Leeuwen-Turnovcova, Jirina van (1990): *Rechts und links in Europa*.
- BV18. Breu, Walter/ Ködderitzsch, Rolf/ Sasse, Hans-Jürgen (hrsg.) (1991): *Aspekte der Albanologie*.
- BV19. Burkhart, Dagmar(hrsg.) (1991): *Körper, Essen und Trinken im Kulturverständnis der Balkanvölker*.
- BV20. Schubert, Gabriella (1993): *Kleidung als Zeichen*.
- BV21. Boretzky, Norbert (1993): *Bugurdži. Deskriptiver und historischer Abriss eines Romani-Dialekts*.
- BV22. Reiter, Norbert (1994): *Grundzüge der Balkanologie*.
- BV23. Reiter, Norbert/ Sundhaussen, Holm(hrsg.) (1994): *Allgemeinbildung als Modernisierungsfaktor*.
- BV24. Boretzky, Norbert (1994): *Romani. Grammatik des Kalderaš-Dialekts mit Texten und Glossar*.
- BV25. Reiter, Norbert/ Hinrichs, Uwe/ Leeuwen-Turnovcova, Jirina van (hrsg.) (1994): *Sprachlicher Standard und Substandard in Südosteuropa und Osteuropa*.
- BV26. Matras, Yaron (1994): *Untersuchungen zu Grammatik und Diskurs des Romanes*.
- BV27. Hinrichs, Uwe/ Hinrichs, Ljiljana (1995): *Serbische Umgangssprache*.
- BV28. Hetzer, Armin (1995): *Nominalisierung und verbale Einbettung in Varietäten des Albanischen*.
- BV29. Igla, Birgit (1996): *Das Romani von Ajia Varvara*.
- BV30. Hopf, Claudia (1997): *Sprachnationalismus in Serbien und Griechenland*.
- BV31. Pani, Pandeli (1997): *Die Diathesen im Albanischen und ihre indogermanischen Grundlagen*.

大まかに見ると、言語学を中心に扱っているといえるものは 19 冊である。その内訳は、形態・統語論が 3 点 (BV1, BV13, BV28)、歴史言語学が 1 点 (BV31)、個別言語・方言研究が 6 点 (BV6, BV15, BV21, BV24, BV26, BV29)、「標準語」に関する論考が 1 点 (BV25)、語彙論が 1 (BV7)、言語社会学的アプローチが 4 点 (BV3, BV9, BV27, BV30)、学会報告集が 3 点 (BV8, BV18, BV22)。それ以外のものは大多数が歴史 (BV4, BV5, BV)、政治・社会 (BV16, BV23)。またこの他、フォークロアが 3 本 (BV2, BV19, BV20)、書誌学が 1 本 (BV10)、女性論が 1 本 (BV12) という構成になっている。

個別言語のモノグラフに関して興味深いのは、ロマ (『ジプシー』) の言語について、地

域単位での論考が見られることである (BV21, BV24, BV26, BV29)。ロマの言語については一連の「バルカン言語現象」を生じないことから、従来「バルカン言語学」の対象とされる言語グループ（ギリシア語、アルバニア語、マケドニア語、ルーマニア語、ブルガリア語、時にセルビア語）には含まれなかつた。しかし 80 年代後半以降のバルカン半島における政治的变化と、それに伴うロマの社会的・民族的地位回復の動きと連動して、ルーマニア（アロマニア）語やカルダーシュ方言など、地域によって様々に呼称され分類されるこれらの言語群への注目が高まっていることをうかがわせる。その他は、従来から論争の対象となっている各言語での標準語確立の問題や、方言境界線の確定に関する議論が多い。

3. Albanische Forschungen

Albanische Forschungen (以下 AF とも) はミュンヘン大学・南東ヨーロッパ研究所 (LMU- Südosteuropa-Institut) の Peter Bartl と Martin Camaj (故人) が中心となって刊行されたシリーズで、バルカン諸言語の中でもアルバニアの言語文化を対象として貴重なモノグラフを収めている (13, 17, 18, 19 は英語版²⁾ なので省略)；

- AF1. Grimm, Gerhard (1964): *Johann Georg von Hahn (1811-1869). Leben und Werk.*
- AF2. Stadtmüller, Georg (1966): *Forschungen zur albanischen Frühgeschichte.*
- AF3. Haebler, Claus (1965): *Grammatik der albanischen Mundart von Salamis.*
- AF4. Heim, Michael (1966): *Spiridion Gopcevic. Leben und Werk.*
- AF5. Robel, Gert (1966): *Franz Baron Nopcsa und Albanien. Ein Beitrag zu Nopcsas Biographie.*
- AF6. Camaj, Martin (1966): *Albanische Wortbildung. Die Bildungsweise der älteren Nomina.*
- AF7. Wernicke, Anneliese (1967): *Theodor Anton Ippen. Ein österreichischer Diplomat und Albanienforscher.*
- AF9. Schanderl, Hanns Dieter (1971): *Die Albanienpolitik Österreich-Ungarns und Italiens 1877-1908.*
- AF8. Bartl, Peter (1968): *Die albanischen Muslime zur Zeit der nationalen Unabhängigkeitsbewegung (1878-1912).*
- AF10. Kellner, Heidrun (1972): *Die albanische Minderheit in Sizilien, dargestellt am Beispiel von Piana degli Albanesi.*
- AF11. Boretzky, Norbert (1974): *Der türkische Einfluß auf das Albanische. Teil1.*
- AF12. Boretzky, Norbert (1974): *Der türkische Einfluß auf das Albanische. Teil2.*
- AF14. Bartl, Peter (1974): *Der Westbalkan zwischen spanischer Monarchie und*

osmanischen Reich. Zur Türkenkriegsproblematik an der Wende vom 16. zum 17.Jahrhundert.

- AF15. Bartl, Peter (1975): *Quellen und Materialien zur albanischen Geschichte im 17. und 18.Jahrhundert I.*

このシリーズは上記 15 卷まで Wiesbaden の O.Harrassowitz 社から刊行されたが、その後は個人出版 (Dr.Dr.Rudolf Trofenik, Muenchen) に移行し、22 卷まで刊行された。

- AF16. Camaj, Martin (1977): *Die albanische Mundart von Falconara Albanese in der Provinz Cosenza.*

- AF20 Bartl, Peter (1979): *Quellen und Materialien zur albanischen Geschichte im 17. und 18.Jahrhundert II.*

- AF21. Lange, Klaus (1981): *Die Agrarfrage in der Politik der Partei der Arbeit Albaniens.*

- AF22. Körner, Christine B. (1982): *Entwicklung und Konzeption der Presse in Albanien und der albanischen Exilpresse.*

AF は版元の事情によりこの 22 卷で事実上刊行が途絶するが、その後継シリーズとも言える *Albanologische Studien* がウィーンの Böhlau 社から刊行されている。現在出ている第 1 卷は次の通り；

- Shkurti, Spiro & Kaser, Karl (1997): *Der Mythos vom Wandervolk der Albaner.*

AF の特徴として、刊行初期には個別の研究者（歴史家・言語学者だけでなく、バルカンにゆかりの深い外交官など）を扱ったものが目立つ。AF1, AF4, AF5, AF7 がこれにあたる。その他については方言の文法 (AF3, AF16, AF10)、形態論 (AF5)、語彙集 (AF11, AF12)、文献目録・テクスト集 (AF15, AF20)、歴史 (AF2, AF8, AF14)、政治経済 (AF9, AF21)、メディア論 (AF22) となっており、言語学だけでなく、より幅広く *Albanologie* の対象分野を網羅する構成になっている。また方言の文法 3 冊については、統語論や形態論よりむしろフォークロア論への傾斜が見受けられる。ただし後継の *Albanologische Studien* がこうした傾向を受け継いでいるかどうかについては、まだ 1 卷のみの刊行であるため、明らかではない。

4. その他・まとめ

この他のドイツ語圏刊行物では、例えば Harrassowitz 社が毎年刊行する *Zeitschrift für Balkanologie* の最新号 (2000/1) の掲載論文が次のようになっている。

Norbert Boretzky, *Natürlicher morphologischer Wandel: Die Entwicklung des*

Imperfekt Aktiv im Albanischen.

Friedbert Ficker, *Anna Hähn-Jossifova und das künstlerische Schaffen in Bulgarien am Ende des 19. Jahrhundert.*

Gerd-Dieter Nehring, *Der albanische Alphabetkongreß 1908. Reflexionen aus standardsprachgeschichtlicher Sicht.*

Helmut W. Schaller, *Die Anfänge der Balkanlinguistik in Deutschland im 18. und 19. Jahrhundert. Ivan Duridanov zum 80. Geburtstag.*

Andrej N. Sobolev, *Der bulgarische Rhodopendialekt im Lichte der Balkanologie.*

アルバニア語の動詞論、個別研究者への考察、言語学史、方言論という構成になっている。

また、ブルガリア科学アカデミー・ブルガリア語研究所が刊行する「バルカン言語学 *Балканско Езикознание*」は、厳密にはドイツ語圏の学術刊行物ではないが、収録論文の大多数がドイツ語で書かれており、特に90年代以降はドイツ語論文が増える傾向にある。これらの雑誌でもBVやAF同様に方言研究やフォークロア研究が多いが、それ以外の分野としては、翻訳論（ドイツ語からバルカン諸語へ）や、地名学（Toponymik）の論文も掲載されている。また例えば、筆者の主たる関心分野である「人称代名詞の重複（Objekt-Duplizierung）」について、最近では Minimalist Program を援用した論文（Schick 1997/98）なども見られる。こうしたアプローチについては、稿をあらためて論じたい。

総じて、ドイツ語圏にせよ、旧「東欧」のドイツ語による発表にせよ、雑誌掲載論文では歴史言語学的な論考が今なお多数を占める。またSchaller(1975)でも見られるような、地域類型論（areale Typologie, Arealtypologie）的立場を踏まえたバルカン言語学の論文も多い。バルカン半島における言語接触の事例を扱ったものもなお存在する（もっとも、トルコ語の影響に関しては近年まとまった論文が少ないようである）。ただ、上にあげたようなドイツ語圏の刊行物では、理論言語学的なものよりも個別言語、個別地域に対する語彙・テクスト収集という姿勢を重視したものが多いと言える。また前述のように、今後さらなる調査の余地が残されているロマの言語などについては、積極的な研究と出版が続くのではないだろうか。こうした動きが、今後のバルカン言語研究の枠組みに影響を与えることもあるのではないかと筆者は考えている。

注

1) その他の刊行物は次の通り；

BV11. Popovic, Alexandre (1986): *L'islam balkanique.*

BV14. Mayer, Gerald L. (1988): *The definite article in contemporary standard*

Bulgarian.

BV17. Clayer, Nathalie (1990): *L'Albanie, Pays des Derviches.*

BV32. Mladenova, Olga (1998): *Grapes and wine in the Balkans.*

2) その他の刊行物は次の通り；

AF13. Bevington, Gary Loyd (1974): *Albanian phonology.*

AF17. Pipa, Arshi (1978): *Albanian folk verse.*

AF18. Pipa, Arshi (1978): *Hieronymus de Rada.*

AF19. Pipa, Arshi (1978): *Albanian literature. Social perspectives.*

Arshi Pipa はアメリカを中心に活躍したアルバニア人文学研究者で、AF に収録されているのは中世～近世～戦後アルバニア語文学の研究三部作（17～18巻）。

参考文献

（本文中にあげたものを除く）

Schaller, Helmut Wilhelm (1975): *Die Balkansprachen. Eine Einführung in die Balkanphilologie.* Heidelberg, Carl Winter.

Schick, Ivanka P. (1997/98): Besonderheiten der Objekt-Duplizierung im Bulgarischen.

Балканско Езикознание 39/1-2, p.29-43.